



日航 907 便事故裁判の無罪を求め IFATCA、IFALPA の代表と全運輸、安全会議、 航空連、日乗連合同で行った活動(10)

IFALPA から Executive Vice President, Asia Pacific Region, Captain Stu Julian と、 IFATCA から Executive Vice President, Professional Affairs, Mr. Scott Shallies を招き、全運輸労働組合、安全会議、航空連、日乗連は合同で、日航 907 便事故裁判の無罪を求め、2009 年 1 月 29 日、最高裁、警察庁、運輸安全委員会、航空局に対し要請行動を行い、30 日は銀座のデモ行進とシンポジウムを行いました。

雨の銀座で整然と行われた 220 名のデモ行進

30 日は残念ながら雨となりましたが、全国各地から参加した管制官の方々、模擬制服を着た乗員など総勢 220 名は、雨の中整然と銀座でデモ行進を行い、日航 907 便事故の管制官の無罪獲得と、刑事捜査と事故調査の分離を強く訴えました。

(2009 年 1 月 31 日 毎日新聞朝刊)

4 労組がデモ行進

日本航空907便 乗客57人負傷 管制官が有罪判決で 管制官2人が逆転の 航空907便の異常接 有罪判決を受けた日本 近事故で、航空関係の

個人の責任追及より 再発防止を

「国際標準の事故調査」を求めデモ行進する 航空関係労組のパイロットら「銀座で30日 午後1時53分、長谷川直亮撮影」

日航907便事故 個人責任追及より再発防止! 国際標準に基づいた航空事故調査の確立を

4 労働組合が30日、銀座の街頭をデモ行進した。横断幕を先頭に掲げた参加者220人は「個人責任の追及より、事故の再発防止を」と訴えた。

事故は01年1月、静岡県焼津市上空で発生。羽田発那覇行き907便と国際線の日航958便が異常接近し、衝突を避けようと急降下した907便の乗客57人が負傷した。便名を言い間違えた管制官2人が業務上過失傷害罪で起訴され、2審の東京高裁が有罪の逆転判決を下した。2人は最高裁に上告中。デモにはIFATCA A(国際航空管制官協会連盟)など海外の航空関係者も参加し、労組幹部は「裁判は国際的な注目を集めている。最高裁は1審の無罪判決を尊重してほしい」と話した。

【高橋昌紀】

